

授業名	災害と防災			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Disaster and Disaster Prevention			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	川島 智生			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	災害と防災について、東日本大震災・阪神大震災・伊勢湾台風・関西大風水害・関東大震災などの大災害を事例に被害と復興を学ぶ。歴史・都市集落・建築・復興・対策をキーワードとして、解説をおこなう。災害と防災の学習をより身近なものにするためにフィールドワークとして、災害痕跡や地域防災拠点の見学を実地し、災害と防災についてのプレゼンテーションをおこなわせる。							
学習成果到達目標	災害と防災についての内容ならびに意味を理解させ、その現状を把握させる。そして今後の防災のありようを提言することを目標とする。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テキスト	河田恵昭『津波災害』岩波新書 竹村雅之『地震と防災』中公新書 の2冊							
参考書	『都市と防災』『京都の歴史災害』							
留意事項	居眠り・スマホいじり・私語・飲食(のど飴・ガムも含む)は一切禁止							
オフィス アワー	オフィスアワーは設定しますが、研究室に在室していれば対応します。どうしても場合は、事前にメール又は直接申出すること							

授 業 名		災害と防災	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 半年間のスケジュールならびにオリエンテーション (必要な準備) テキストに目をとおすなどの事前学習	
第2回	災害の歴史	(内 容) 災害の歴史についての説明 (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習	
第3回	災害の種類	(内 容) 地震・火災・台風・水害についての説明 (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習	
第4回	構築物と災害	(内 容) 建物や橋、堤防などの構築物と災害の関わりの説明 (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習	
第5回	事例紹介1 東日本大震災1	(内 容) 東日本大震災と津波についての説明1 (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習	
第6回	事例紹介2東日本大震災2	(内 容) 東日本大震災と津波についての説明2 (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習	
第7回	事例紹介3 阪神大震災	(内 容) 阪神大震災と火災についての説明 (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習	
第8回	事例紹介4 関西大風水害	(内 容) 関西大風水害と建物倒壊についての説明 (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習	
第9回	事例紹介5 関東大震災	(内 容) 関東大震災と建物倒壊・火災についての説明 (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習	
第10回	フィールドワーク1	(内 容) 京都の災害の痕跡のフィールドワーク (必要な準備) 当該地域の事前学習	
第11回	防災と法整備	(内 容) 防災と法整備についての説明 (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習	
第12回	防災と地域社会	(内 容) 防災と地域社会についての説明 (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習	
第13回	防災と復興計画	(内 容) 防災と復興計画についての説明 (必要な準備) テキストの該当箇所を事前学習	
第14回	フィールドワーク2	(内 容) 地域防災拠点の見学 (必要な準備) 当該地域の事前学習	
第15回	災害と防災のプレゼンテーション	(内 容) 災害と防災についてのプレゼンテーション (必要な準備) 各自パワー・ポイントでの発表	

授業名	ジェンダー論u			開講学年	2・3・4回生	単位数	2単位	
英文名	Gender Studies			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	斧出 節子			対象学生	現代家政2回生・3回生・4回生、食物栄養2回生・3回生			
授業の概要	<p>「女性である」「男性である」ということは、あまりに当たり前すぎて日常的に意識化されないことが多い。しかし、人は生まれた瞬間から女性または男性いずれかのカテゴリーに入れられ、文化的・社会的にふさわしい行動が期待される。本講義ではまず、どのような過程を経て、女性、男性になっていくのかを「社会化」という点からとらえ、「ジェンダー（文化的・社会的性差）」を相対化することを試みる。そして、現実の生活の中でジェンダーがどのように機能し、どのような課題を含んでいるのかを探っていく。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 現代社会におけるジェンダー差が意味するものについて意見を持つことができる。 2) 自分自身、今後開発すべき能力は何かを理解することができる。</p>							
評価方法	定期試験 (80 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (20 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (積極的な授業態度)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力			
テキスト	『女性学・男性学 ジェンダー論入門』伊藤公雄ほか(有斐閣アルマ)							
参考書	『初めて学ぶジェンダー論』伊田広行 著(大月書店)、『よくわかるジェンダー・スタディーズ』木村涼子ほか編著(ミネルヴァ書房)、『ジェンダー論をつかむ』千田有紀ほか著(有斐閣)、『未来をひらく男女共同参画 - ジェンダーの視点から』西岡正子編(ミネルヴァ書房)、『働く女子の運命』濱口桂一郎(文春新書)							
留意事項	遠くの誰かの問題ではなく、自分自身の問題として考えてください。ディスカッションも行き、受講者は授業への積極的な参加が求められます。							
オフィスアワー	毎週1回(休業期間中を除く。)オフィスアワーを設けます。具体的な日時は研究室に張り出します。 【備考】オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合があります。また、あらかじめ予約が必要な場合がありますので、その場合は、メールまたは直接申し出るようにしてください							

授 業 名		ジェンダー論u	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	セックスとジェンダーの違い	(内 容) 概念説明 (必要な準備) シラバスを読んでおく。	
第2回	「らしさ」とは何か	(内 容) 男らしさ、女らしさについて考える。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第3回	男女二分法について	(内 容) 二つに分けることはどういうことかを学ぶ。 (必要な準備) 前回の講義について復習すること。(30分)	
第4回	性における多様性：性の複数の次元	(内 容) 性の複数の次元について学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第5回	性における多様性：性の少数派	(内 容) 性の少数派について理解する。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第6回	文化とジェンダー	(内 容) 文化によるジェンダーの違いを学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第7回	幼児期の性の社会化	(内 容) 親と子どもの相互作用について学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第8回	シンデレラとジェンダー	(内 容) 映像を分析する。 (必要な準備) グリム童話について調べておくこと。(30分)	
第9回	メディアがジェンダーに与える影響	(内 容) メディアが与える影響について考える。 (必要な準備) 課題レポートを作成しておくこと。(30分)	
第10回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラム	(内 容) 隠れたカリキュラムについて理解する。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)	
第11回	教育とジェンダー：隠れたカリキュラムの実態	(内 容) 自分の経験をもとに、隠れたカリキュラムの実態について考える。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第12回	デートDVとジェンダー	(内 容) デートDVの実態とメカニズムを学ぶ。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)	
第13回	就労とジェンダー	(内 容) 就労に関してどのようなジェンダー差があるか学ぶ。 (必要な準備) テキストの関連箇所を読んでおく。(30分)	
第14回	子育てとジェンダー	(内 容) ジェンダーの視点からみた子育ての現状と課題について学ぶ。 (必要な準備) 前回の授業内容をまとめておくこと。(30分)	
第15回	まとめ	(内 容) これまでのまとめと今後の課題を学ぶ。 (必要な準備) 疑問点をまとめておくこと。(30分)	

授業名	服装文化			開講学年	3回生	単位数	2単位	
英文名	Clothing Culture			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	馬場 まみ			対象学生	現代家政3回生			
授業の概要	「洋服」以外の衣服、民族服について、どのようにして形成されたのかについて理解する。興味をもったアジアやヨーロッパの民族服について調べ、発表する。さらに、日本の和服に関するテーマを設定して調べ、発表する。これらのことを通し、服装に関する理解を深める。							
学習成果到達目標	1) 民族服について説明できる。 2) 日本の服飾文化について説明することができる。							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	指定しない							
参考書	授業で随時紹介する。							
留意事項								
オフィス アワー	毎週1回(休業期間中を除く)設定する。ただし、会議や出張などで対応できない場合がある。							

授 業 名		服装文化	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	科目ガイダンス	(内 容)	科目ガイダンス (必要な準備) シラバスを読み、民族服について考える。(30分)
第2回	民族服とは	(内 容)	民族服について理解する。 (必要な準備) 配付資料を読む。(30分)
第3回	近代化と民族服形成	(内 容)	民族服の形成について理解する。 (必要な準備) 配付資料を読む。(30分)
第4回	民族服について調べる 国の歴史と服装	(内 容)	民族の歴史と着用状況について調べる。 (必要な準備) 必要な資料を準備する。(30分)
第5回	民族服について調べる 衣服の形	(内 容)	民族服の男女それぞれの衣服の形と特徴を調べる。 (必要な準備) 必要な資料を準備する。(30分)
第6回	民族服について調べる 染織技法と文様	(内 容)	民族服の染織技法と文様について調べる。 (必要な準備) 必要な資料を準備する。(30分)
第7回	世界の民族服について発表する	(内 容)	民族服について発表する。 (必要な準備) 発表に必要な資料を作成する。(30分)
第8回	世界の民族服と洋服	(内 容)	民族服と洋服の関係について理解する。 (必要な準備) 発表内容について振り返りを行う。(30分)
第9回	和服の概要	(内 容)	和服について知る。 (必要な準備) 配付資料を読む。(30分)
第10回	和服について調べる 歴史	(内 容)	和服の歴史について調べる。 (必要な準備) 必要な資料を準備する。(30分)
第11回	和服について調べる 種類	(内 容)	和服の種類について調べる。 (必要な準備) 必要な資料を準備する。(30分)
第12回	和服について調べる 染織技法と文様	(内 容)	和服に用いられている染織技法とについて調べる。 (必要な準備) 必要な資料を準備する。(30分)
第13回	和服について発表する	(内 容)	和服について調べたことを発表する。 (必要な準備) 発表資料の作成。(30分)
第14回	現代の和服産業	(内 容)	現代の和服産業の状況について講義する。 (必要な準備) 和服産業について調べてくる。(30分)
第15回	総括	(内 容)	全体のみとめ (必要な準備) これまでの振り返りを行う。(30分)

授 業 名	循環型社会論			開 講 学 年	1回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Theory of Resource-circulating Society			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	湯浅 俊郎			対 象 学 生	現代家政1回生			
授業の概要	<p>今日、私たちは、多くのモノを生産、消費しながら生活している。そのような私たちの生活が自然の循環システムに乗っている状況では、問題は生じていなかった。ヒトは自然の循環システムに乗らなくなったモノを作り出し、私たちは、廃棄物が大量に発生する状況に置かれている。このように自然に再生されない資源を私たちが多量に消費し続ける状況を脱するために、私たちの社会そのもののありかたを転換しなければならない。その転換の道筋が循環型社会とされているが、その具体的な姿はまだ見えてきていない。授業では循環型社会の形成における課題について、その入門編を目指します。</p>							
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 物事を観察する力を身につけ、環境問題に関して自分の日常生活と結びつけながら、循環型社会のありかたについて「自分なり」に客観的に捉えて分析して行くことを試みられる力を身につけることができるようになる。 2) 現代のライフスタイルを客観的に見るようになる。 3) 環境に関するデータを読むことができるようになる。</p>							
評 価 方 法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力)		
テ キ ス ト	授業時に資料を配布します。							
参 考 書	『環境の社会学』、関礼子・中澤秀雄・丸山康司・田中求、有斐閣アルマ、『サステナビリティ学 資源利用と循環型社会』、小宮山宏・武内和彦・住 明正・花木啓祐・三村信男、東京大学出版会							
留 意 事 項	日常生活においても、資源のリサイクルの取り組みなどに注目し、授業で習ったことを、実際に日常の出来事に適用・応用し、授業中課題（ミニツツペーパー）にも、その成果を出せるようにする。（授業の進展度合いにより予定の変更もある）							
オ フ ィ ス ア ワ ー	毎週1回（休業期間中を除く。）オフィスアワーを設けます。 オフィスアワーに設定している時間帯であっても、会議や出張などで在室できない場合がありますので、予めご承知おきください。							

授 業 名		学習項目	学習内容・課題
授 業 計 画			
第1回	ガイダンス	(内 容) 授業の内容と進め方について説明します。 (必要な準備)	
第2回	環境問題の社会史 -産業公害から高速交通公害	(内 容) まず、環境問題の社会史を見ていき、資源循環型社会が求められる要因を考察していきます。 (必要な準備) 自分の身の回りにおいて生じている環境問題を整理してください(60分)。	
第3回	環境問題の社会史 -生活公害から地球環境問題	(内 容) 現代における環境問題を説明します。 (必要な準備) 現代では、どのような環境問題が起こっているのか、自分で整理してみてください(60分)。	
第4回	開発と環境問題の歴史	(内 容) 今から半世紀前から始まった高度経済成長以前の開発による環境問題について考察します。 (必要な準備) 現代のライフスタイルの中で、何が環境問題の原因となっているのか整理してみてください(60分)。	
第5回	開発と環境問題の歴史	(内 容) 高度経済成長期以降の開発による環境問題を考察していきます。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、環境問題のとらえ方について考察してみてください(60分)。	
第6回	開発と環境問題の現状	(内 容) 開発による環境問題の現状について説明します。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、現在の環境問題へと至ったプロセスについて整理してみてください(60分)。	
第7回	地球環境問題	(内 容) 地球環境問題の概要について説明します。 (必要な準備) 地球温暖化に関する新聞や雑誌の記事を収集してください(60分)。	
第8回	地球環境問題	(内 容) 地球環境問題の特徴について説明します。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、これまでの環境問題と地球環境問題との違いについて考察してみてください(60分)。	
第9回	リスク社会	(内 容) 近年議論されている科学技術の発展と自然環境の問題におけるリスクについて説明します。 (必要な準備) 原発の問題に関する新聞や雑誌の記事を収集してください(60分)。	
第10回	科学技術の発展と自然環境問題の特徴	(内 容) 科学技術の発展と環境問題との関係の特徴について説明します。 (必要な準備) 自分の日常生活を振り返って、科学技術と環境の問題について整理してください(60分)。	
第11回	循環型社会への取組 --生活様式の転換	(内 容) 循環型社会に向けた生活様式の転換について考察します。 (必要な準備) 自分の生活様式(ライフスタイル)を振り返りながら、「ごみ」をどのくらい出しているのか、消費のありかたについて整理してみてください(60分)。	
第12回	循環型社会への取組 -自然と社会をデザインする。	(内 容) 生物多様性の問題について考察します。 (必要な準備) 生態系の問題について調べてきてください(60分)。	
第13回	循環型社会への取組 -コウノトリの野生復帰	(内 容) 豊岡市の事例について考察します。 (必要な準備) 生態系の再生に関する新聞や雑誌の記事を収集してきてください(60分)。	
第14回	効率よいエネルギー利用とは	(内 容) 効率よいエネルギー利用について考察します。 (必要な準備) 省エネなど自分の日常生活において、どのようなことが実践できるのか考えてみてください(60分)。	
第15回	循環型社会の形成に向けて	(内 容) 総括として、循環型社会の形成に向けた課題について考察します。 (必要な準備) 授業で習ったことを適用・応用し、自分なりに循環型社会の形成に向けた課題について考察してみてください(60分)。	

授業名	家族関係論			開講学年	2回生	単位数	2単位	
英文名	Theory of Family Romance			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	秋山 裕之			対象学生	現代家政2回生、食物栄養2回生			
授業の概要	<p>社会の変化に伴い、家族の形態や機能も変化している。家族のあり方が多様化する中で、家族の機能低下や家族関係の希薄化などが問題点として指摘されている。その一方でバブル経済崩壊後は「一番大切なもの」に家族を挙げる人が4割以上を占めるなど、家族は現代人にとってもっとも重要な心の拠り所である。本講義では、家族を取り巻く複雑な状況をふまえて、家族関係の実態を概観しながら、望ましい家族関係について考察する。</p>							
学習成果到達目標	<p>1) 現代日本の家族の実態について先入観にとらわれずに客観的に把握するための視座を持つ。 2) 家族が持つ可能性と抱えている困難を理解したうえで望ましい家族について考えることができる。</p>							
評価方法	定期試験 (60 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (40 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()		課題発見・解決能力 ()		
テキスト	河合隼雄1980『家族関係を考える』講談社現代新書							
参考書	岡田尊司2014『母という病』2015『父という病』 尾木直樹2015『親子共依存』 すべてポプラ新書							
留意事項	毎回の予習とグループ討議での活発な意見交換を求めます。座席は指定します。							
オフィスアワー	週に1時間×1回設定。曜日・時間帯は学生演習室にて掲示。							

授 業 名		学 習 内 容 ・ 課 題
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題
第1回	オリエンテーション	(内 容) この授業のテーマと進め方について (必要な準備) シラバスを読んでくる(5分)
第2回	いま家族とは何か	(内 容) テキスト第1章 (必要な準備) テキストの第1章を読んでくる(30分)
第3回	個人・家・社会	(内 容) テキスト第2章 (必要な準備) テキストの第2章を読んでくる(30分)
第4回	親子であること	(内 容) テキスト第3章 (必要な準備) テキストの第3章を読んでくる(30分)
第5回	夫婦の絆	(内 容) テキスト第4章 (必要な準備) テキストの第4章を読んでくる(30分)
第6回	父と息子	(内 容) テキスト第5章 (必要な準備) テキストの第5章を読んでくる(30分)
第7回	母と娘	(内 容) テキスト第6章 (必要な準備) テキストの第6章を読んでくる(30分)
第8回	父と娘	(内 容) テキスト第7章 (必要な準備) テキストの第7章を読んでくる(30分)
第9回	きょうだい	(内 容) テキスト第8章 (必要な準備) テキストの第8章を読んでくる(30分)
第10回	家族の危機	(内 容) テキスト第9章 (必要な準備) テキストの第9章を読んでくる(30分)
第11回	老人と家族	(内 容) テキスト第10章 (必要な準備) テキストの第10章を読んでくる(30分)
第12回	家族のうち・そと	(内 容) テキスト第11章 (必要な準備) テキストの第11章を読んでくる(30分)
第13回	これからの家族	(内 容) テキスト第12章 (必要な準備) テキストの第12章を読んでくる(30分)
第14回	現代日本の家族 親子共依存	(内 容) 親子共依存 (必要な準備) 自分の意見をまとめてくる(30分)
第15回	家族関係を考える	(内 容) テキスト総復習 (必要な準備) 自分の意見をまとめてくる(30分)

授 業 名	保健医療サービス			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位	
英 文 名	Health and Medical Teratment Services			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択	
担 当 者	高岡 理恵			対 象 学 生	現代家政4回生			
授業の概要	利用者、その家族が、病気や障害を抱えながらも日常生活を継続させていくためには、包括的な保健・医療・福祉サービスの利用や支援が必要となる。そのような支援体制を構築するために、保健・医療と福祉の連携は欠かすことができない。我が国の医療現状を把握したうえで保健・医療分野の知識を習得し、そこで働く社会福祉士としての仕事を理解するための授業とする。							
学 習 成 果 達 成 目 標	1) 保健医療機関の基本的仕組みや現状や課題が理解できる。 2) 保健医療分野での社会福祉士の役割が理解できる。							
評 価 方 法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 ()	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テ キ ス ト	新・社会福祉士養成講座 17 保健医療サービス 中央法規出版							
参 考 書	適宜紹介する。							
留 意 事 項	予習は必ず行い、積極的な学習態度で授業にのぞむこと。							
オ フ ィ ス ア ワ ー	担当授業終了後に実施する。							

授 業 名		保健医療サービス	
授 業 計 画	学習項目	学習内容・課題	
第1回	ガイダンス	(内 容) 保健医療サービスとは何か概略を学ぶ。 (必要な準備) シラバスを読んでおく。テキストを購入できた人はテキスト第1章第1節を読む。	
第2回	医療保健サービスの歴史	(内 容) 戦後の保健医療サービスの歴史を知る。 (必要な準備) テキスト第1章第2節を読み、わからない語句等を調べておく。	
第3回	医療に係わる法律	(内 容) 医療法について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第1章第3節、第2章第1節を読み、わからない語句等を調べておく。	
第4回	「保健医療サービスの提供と経済的保障」 医療保険制度	(内 容) 医療保険制度について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第5章第1節を読み、わからない語句等を調べておく。	
第5回	「保健医療サービスの提供と経済的保障」 診療報酬	(内 容) 診療報酬と公費負担医療について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第5章第1・3節を読み、わからない語句等を調べておく。	
第6回	「保健医療サービスの提供と経済的保障」 介護保険制度	(内 容) 介護保険制度と介護報酬について学ぶ (必要な準備) テキスト第5章第2節を読み、わからない語句等を調べておく。	
第7回	「医療保健に関わる施設とシステム」 医療法に規定された医療施設	(内 容) 医療法による医療施設の機能・類型を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第2章第1節を読み、わからない語句等を調べておく。	
第8回	「医療保健に関わる施設とシステム」 診療報酬上に規定された医療施設	(内 容) 保健医療政策・診療報酬における医療施設を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第2章第2・3節を読み、わからない語句等を調べておく。	
第9回	「医療保健に関わる施設とシステム」 介護保険法による施設	(内 容) 介護保険法による施設の機能・類型を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第2章第4・5節を読み、わからない語句等を調べておく。	
第10回	医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み	(内 容) 医療ソーシャルワーカーの定義や歴史を知る。 (必要な準備) テキスト第3章第1節を読み、わからない語句等を調べておく。	
第11回	「医療ソーシャルワーカーの業務」 医療ソーシャルワーカーの業務内容と倫理	(内 容) 基本的な業務内容を学ぶ。 (必要な準備) テキスト第3章第2・3・4節を読み、わからない語句等を調べておく。	
第12回	「医療ソーシャルワーカーの業務」 医療ソーシャルワーカーの事例	(内 容) 事例を通じて具体的な業務内容を学ぶ。 (必要な準備) 配布された資料に目を通しておく	
第13回	保健医療サービスにおける連携	(内 容) 領域の専門職とその連携方法について学ぶ (必要な準備) テキスト4章を読み、わからない語句等を調べておく。	
第14回	保健医療の専門職との連携の実際	(内 容) 事例をもとに、チームケアの実際を学ぶ (必要な準備) テキスト第6章を読み、領域の専門職の役割について説明できるようにしておく。	
第15回	まとめと今後の課題	(内 容) 保健医療の課題について考察する。 (必要な準備) 今までの資料、まとめノートに必要な内容を書き込み作成してくる。	

授 業 名	社会福祉行政			開 講 学 年	4回生	単 位 数	2単位
英 文 名	Social Welfare Administration			開 講 時 期	秋学期	必修・選択	選択
担 当 者	野田 隆生			対 象 学 生	現代家政4回生		
授業の概要	<p>1) 社会福祉事業の運営を担う福祉行政の組織とそこで働く専門職の役割や専門性について学ぶ。</p> <p>2) 社会福祉事業に関する行政や財政の仕組み(各種社会福祉担当部局課、福祉事務所、児童相談所等)や、社会福祉計画(老人福祉計画、介護保険事業計画、障害福祉計画、次世代育成支援行動計画、地域福祉計画等)の意義や目的について理解することを学ぶ。</p> <p>3) 国・都道府県・市町村の役割を理解し、国と地方自治体との関係や組織及び団体における専門職の役割等について学ぶ。</p>						
学 習 成 果 達 成 目 標	<p>1) 社会福祉事業に関する行政・財政の仕組みを理解できる。</p> <p>2) 社会福祉行政の実施体制を理解し、その現状を把握することができる。</p> <p>3) 社会福祉計画(老人福祉計画、障害福祉計画、次世代育成支援行動計画、地域福祉計画等)の意義や目的について理解することができる。</p>						
評 価 方 法	定期試験 (70 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (30 %)	筆記試験 口述	レポート 実習 制作物 実技
評 価 基 準	主たる評価の 観点	知識・理解 (思考・判断力	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力	課題発見・解決能力	()	
テ キ ス ト	磯部文雄/府川哲夫編著『概説福祉行政と福祉計画(改訂版)』ミネルヴァ書房,2017,3						
参 考 書	山口道昭著『福祉行政の基礎』(有斐閣,2016,10) 畑本裕介著『社会福祉行政—行政と福祉計画』(法律文化社,2012,4) 神野直彦・山本隆・山本恵子編著『社会福祉行政財政計画論』(法律文化社,2011,7) 石川久著『図解福祉行政はわかり』(学陽書房,2014,12) 竹端寛・伊藤健次・望月宗一郎・上田美穂編著『自分たちで創る現場を変える地域包括ケアシステム—わがまちでも実現可能なレシビ』(ミネルヴァ書房,2016,3)						
留 意 事 項	下記について理解した上で履修されたし。 現代社会の動きに対応するため、新聞・雑誌等に常に目を通しておく。 時事問題を各自が取り上げ、それに基づきディスカッションができるようになる。 個別の発表内容を限られた時間に、必要な資料に基づき伝えることができるようになる。 筆記試験については、テキストの持ち込みを可とする。						
オ フ ィ ス ア ワ ー	講義初回時にお知らせします。 基本的に研究室に在室していれば対応をします。 また、急な質問等については学内E-mailを利用して下さい。						

授業名	社会福祉行政	
授業計画	学習項目	学習内容・課題
第1回	はじめに ～社会福祉とは～	(内 容) 本講の進め方、成績評価の方法について解説した後、「社会福祉」の理解に向けた復習を行う。 (必要な準備) テキスト第1章(pp.1-8)を読んでおく。(45分)
第2回	福祉行政の組織と専門職について	(内 容) 福祉行政の理解ならびに社会福祉の実施体制について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第2章(pp.10-31)を読んでおく。(45分)
第3回	福祉行政と福祉事務所について	(内 容) 福祉行政における福祉事務所の位置づけやその役割について理解を深める。 (必要な準備) テキスト第3章(pp.32-45)を読んでおく。(45分)
第4回	社会福祉専門職の役割について	(内 容) 福祉行政や施設にいる社会福祉専門職について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第4章(pp.46-60)を読んでおく。(45分)
第5回	「措置」から「契約」への移行について	(内 容) 社会福祉基礎構造改革について学び、措置から契約へと移行した社会背景について理解する。 (必要な準備) テキスト第6章(pp.73-87)を読んでおく。(45分)
第6回	福祉行政と地方分権改革について	(内 容) 地方分権改革を踏まえた福祉行政について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第5章(pp.61-72)を読んでおく。(45分)
第7回	福祉財政と社会保障 ～社会福祉の位置づけと国の福祉予算～	(内 容) 国の一般会計予算に占める「社会保障関係費」について理解し、その課題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第7章(pp.88-106)を読んでおく。(45分)
第8回	福祉財政と社会保障 ～地方自治体と民間社会福祉事業～	(内 容) 地方自治体や民間社会福祉事業の財政基盤について理解し、その課題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第8章(pp.107-123)を読んでおく。(45分)
第9回	福祉財政と社会保障 ～市町村の福祉財源～	(内 容) 市町村の福祉財源の概況と民生費について理解し、その課題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第9章(pp.124-137)を読んでおく。(45分)
第10回	福祉計画の意義と目的について	(内 容) 福祉計画の意義・目的・法的位置付けについて理解する。 (必要な準備) テキスト第10章(pp.140-153)を読んでおく。(45分)
第11回	高齢者に関する福祉計画について	(内 容) 1980年代以降の高齢者に関する福祉計画について理解し、その課題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第11章(pp.154-172)を読んでおく。(45分)
第12回	障害者に関する福祉計画について	(内 容) 1980年代以降の障害児者に関する福祉計画について理解し、その課題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第12章(pp.173-187)を読んでおく。(45分)
第13回	地域福祉に関する福祉計画について	(内 容) 地域福祉における福祉計画について理解し、その課題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第13章(pp.188-202)を読んでおく。(45分)
第14回	子ども・子育てに関する福祉計画について	(内 容) 子どもや子育てに関する福祉計画について理解し、その課題について学ぶ。 (必要な準備) テキスト第14章(pp.203-216)を読んでおく。(45分)
第15回	まとめにかえて ～自分らしく生きることのできる社会とは?～	(内 容) 社会福祉行政の制度改革のねらいと地域住民のニーズへの対応は連動しているのかを考え、これからの展望についてディスカッションをする。 (必要な準備) テキスト第15章(pp.217-227)を読み、自分の考えをまとめておく。(90分)

授業名	栄養学			開講学年	1回生	単位数	2単位	
英文名	Dietetics			開講時期	秋学期	必修・選択	選択	
担当者	豊原 容子			対象学生	現代家政1回生			
授業の概要	健康の保持・増進、疾病の予防における栄養の役割および 栄養素の代謝とその生理的意義を理解するための基礎事項について学ぶ。							
学習成果到達目標	1) 五大栄養素の基礎知識が理解できる。 2) 栄養素の代謝について理解できる。 3) 健康に対する栄養素の重要性が理解できる。							
評価方法	定期試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技	平常試験 (50 %)	筆記試験 口述	レポート 実習	制作物 実技
評価基準	主たる評価の 観点	知識・理解 (汎用的能力)	コミュニケーション能力	プレゼンテーション能力 ()	課題発見・解決能力 ()			
テキスト	三訂 栄養と健康 日本フードスペシャリスト協会編、建帛社 食物学 ー食品の成分と機能ー、日本フードスペシャリスト協会編、建帛社							
参考書	使用しない。							
留意事項	随時振り返りテストを行うので、復習を欠かさないこと。							
オフィス アワー	オフィスアワーの設定曜日・時間は研究室ドアに掲示します。それ以外でも研究室に在室していれば対応します。 急ぎの場合は事前にメールで連絡してください。							

授 業 名		栄 養 学	
授 業 計 画	学 習 項 目	学 習 内 容 ・ 課 題	
第1回	栄養とは	(内 容) 栄養の定義、からだのしくみについて (必要な準備) 教科書 p1-10を一読しておく(30分)	
第2回	糖質について	(内 容) 糖質の種類と構造 (必要な準備) 教科書 p40-47,教科書 p29-55を一読しておく(30分)	
第3回	糖質の働き	(内 容) 糖質の機能について (必要な準備) 前回の復習をしておく(30分)	
第4回	脂質について	(内 容) 脂質の種類と構造について (必要な準備) 教科書 p48-55,教科書 p74-84を一読しておく(30分)	
第5回	脂質の働き	(内 容) 脂質の機能について (必要な準備) 前回の復習をしておく(30分)	
第6回	タンパク質について	(内 容) タンパク質の種類と構造 (必要な準備) 教科書 p55-64,教科書 p56-70を一読しておく(30分)	
第7回	タンパク質の働き	(内 容) タンパク質の機能 (必要な準備) 前回の復習をしておく(30分)	
第8回	ビタミンについて	(内 容) ビタミンの種類と機能 (必要な準備) 教科書 p76-96,教科書 p90-100を一読しておく事(30分)	
第9回	ミネラルについて	(内 容) ミネラルの種類と機能 (必要な準備) 教科書 p68-74,97-106,教科書 p101-106を一読しておく(30分)	
第10回	消化のしくみ	(内 容) 消化器系の構造及び消化の流れについて (必要な準備) 教科書 p27-33を一読しておく、栄養素について復習しておく(60分)	
第11回	吸収のしくみ	(内 容) 上皮細胞膜通過の仕組み (必要な準備) 教科書 p10-14を一読しておく(30分)	
第12回	エネルギー代謝	(内 容) 三大栄養素とエネルギー産生、基礎代謝量に関わる因子など (必要な準備) 教科書 p20-27,45-47,64-65を一読しておく(30分)	
第13回	食事摂取基準について	(内 容) 食事摂取基準の解説 (必要な準備) 教科書 p76-99を一読しておく(30分)	
第14回	ライフステージと栄養	(内 容) 各ステージにおける栄養の注意点について (必要な準備) 教科書 p129-148を一読しておく(30分)	
第15回	生活習慣病と栄養	(内 容) 生活習慣病の予防と食事との関連について (必要な準備) 教科書 p149-168を一読しておく(30分)	